豊田市の学校教育における AI活用を考える

安全性と教育的価値を比較し、利用条件を決めるための協議資料

教育委員会向け ｜ 2026年9月24日

検討原案

今回の協議で決めること

目的

豊田市として、AIを使う条件を具体化する

何を

活用場面と情報

誰が

教育委員会 教職員 児童 生徒

どの環境で

承認サービス 契約 セキュリティ

どのルールで

入力 出力確認 共有 公開 記録

結論は 利用可 条件付き 原則避ける 個別確認 のいずれか

立場によって異なる懸念

教育委員会

制度と環境を整える

利用可能なAI
情報区分と契約
費用 責任 事故対応

教職員

安全に使いこなす

何に使えるか
個人情報と著作権
出力を確認できるか

児童生徒

考えながら使う

年齢とアカウント
誤情報と依存
引用と学習評価

教育委員会は 自らの判断 と 学校を支える判断 の両方を担う

現場で判断が必要となる主な場面

? 教科書の写真を撮って教材にしてよい？

? 児童の作文をAIに読ませてよい？

? AI画像を授業で使ってよい？

? 保護者文書をAIに書かせてよい？

? 行動記録から支援案を出させてよい？

? 児童生徒にどこまで使わせてよい？

具体的な活用場面ごとに 利用条件と確認手順を整理する

国の方向性と最新の公的資料

人間中心の適切な活用を基本とする

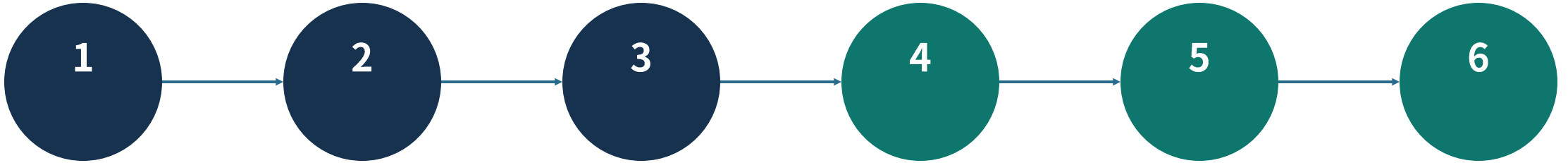
人間中心 教育目的 発達段階 教育委員会の制度設計

2024.12	**生成AIガイドライン Ver.2.0**	教職員 校務 児童生徒 教育委員会の留意点
2025.03	**教育情報セキュリティ**	情報資産の分類とクラウド利用の安全管理
2026.03	**AI事業者ガイドライン 1.2**	AIガバナンスと利用者の責任
2026.04	**教育データ留意事項 第4版**	個人情報と教育データの安全 安心

2026年個人情報保護法改正は公布済み。多くの規定は未施行のため、施行前に市の規程を更新

全資料で使う判断フレーム

共通体系



利用主体	5領域	Lv.1〜4	活用場面	メリットとリスク	対策と利用判断
誰が使う	何に使う	複雑性とデータ	具体的な作業	価値と理由	条件と確認者

同じ枠組みを プレゼン 詳細資料 Q&A ガイドライン 研修 で共通化

教育現場のAI活用 5領域

全体像

1 校務 業務改善

2 学校 学級経営 児童生徒理解

3 授業 アシスト

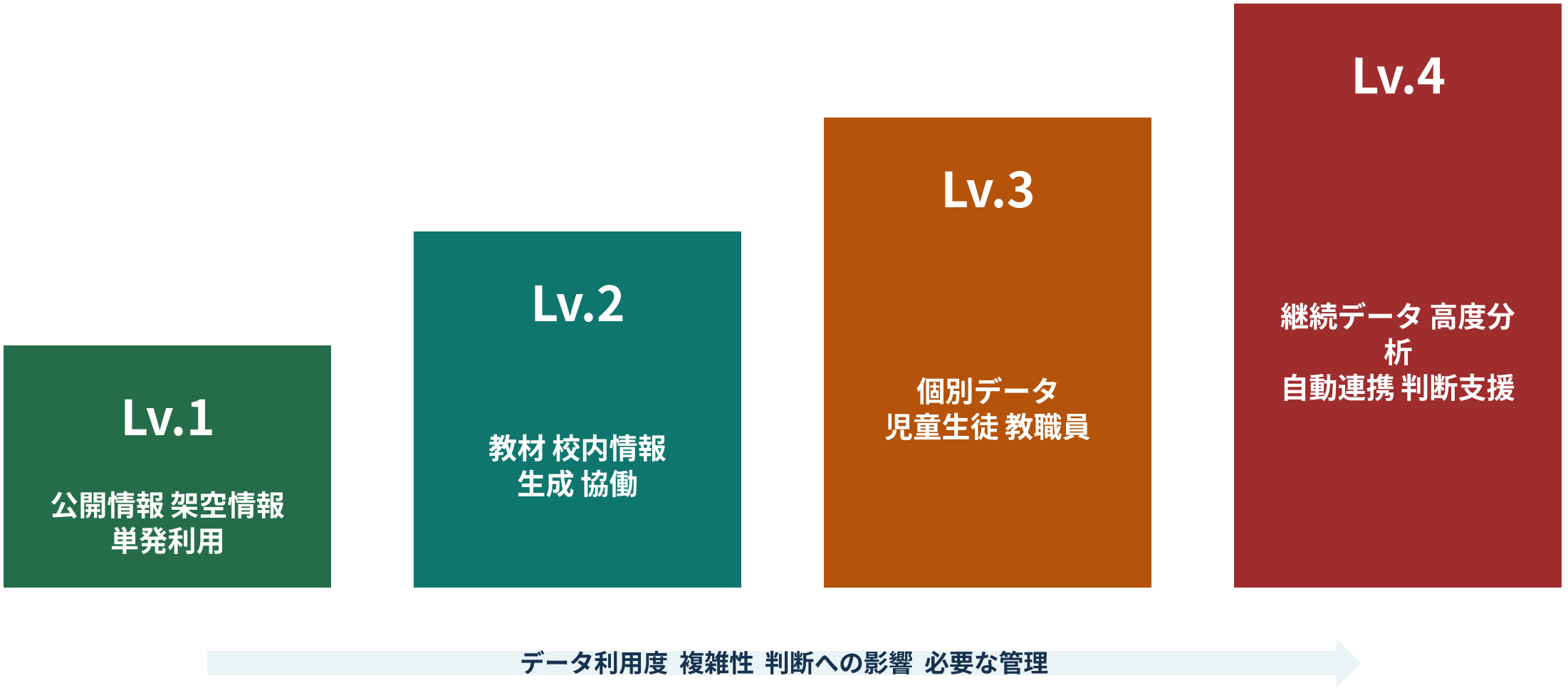
4 教材 制作

5 児童生徒自身 の AI活用

共通基盤 利用ガイドライン 情報セキュリティ 研修 端末とアカウント 相談体制

Lv.1〜4に応じて管理要件を設定

利用レベル



情報と利用環境の組合せ

利用レベル

	一般向けAI	承認済み業務AI	閉域 個別契約環境
公開 架空情報	可	可	可
校内限定情報	原則避ける	条件付き	条件付き
個人情報	入力しない	必要最小限	管理者承認
成績 生徒指導 健康	入力しない	原則入力しない	個別審査

契約環境でも出力を検証し 最終判断者を明確にする

校務 業務改善

1

文章作成から始める低リスク利用

通知文や案内文の構成案
会議の論点整理と要約
アンケート自由記述の分類
行事計画や研修資料のたたき台

主なリスク

誤情報
個人情報の外部送信
確認作業の増加

判断の目安

Lv.1を中心に開始
固有情報は人が追記

活用場面ごとに 出力確認者と最終判断者を定める

学校 学級経営 児童生徒理解

5領域

2

支援の観点を増やし 人が判断する

面談質問の候補
保護者説明の下書き
記録の整理
支援方法の観点出し

主なリスク

ラベリング
要配慮情報
誤った推定

判断の目安

個別データは承認環境
支援方針は教職員が決定

活用場面ごとに 出力確認者と最終判断者を定める

授業アシスト

5領域

3

教師の設計と見取りを支える

発問や誤答例の候補
説明の言い換え
英会話や対話の相手
探究の論点整理

主なリスク

誤説明
学習目標とのずれ
年齢条件

判断の目安

教師が教科書等で検証
発達段階に合わせる

活用場面ごとに 出力確認者と最終判断者を定める

教材 コンテンツ制作

5領域

4

作る時間を短縮し 検証に時間を使う

問題とワークシートの原案
図解や画像の生成
ルーブリックの観点候補
プレゼン資料の構成

主なリスク

著作権
既存作品との類似
誤答

判断の目安

入力素材と公開範囲を確認
教師が全出力を検証

活用場面ごとに 出力確認者と最終判断者を定める

児童生徒自身のAI活用

5

AIの使い方そのものを学ぶ

誤回答の検証
文章の推敲と比較
調査計画や問いの改善
創作とプログラミング

主なリスク

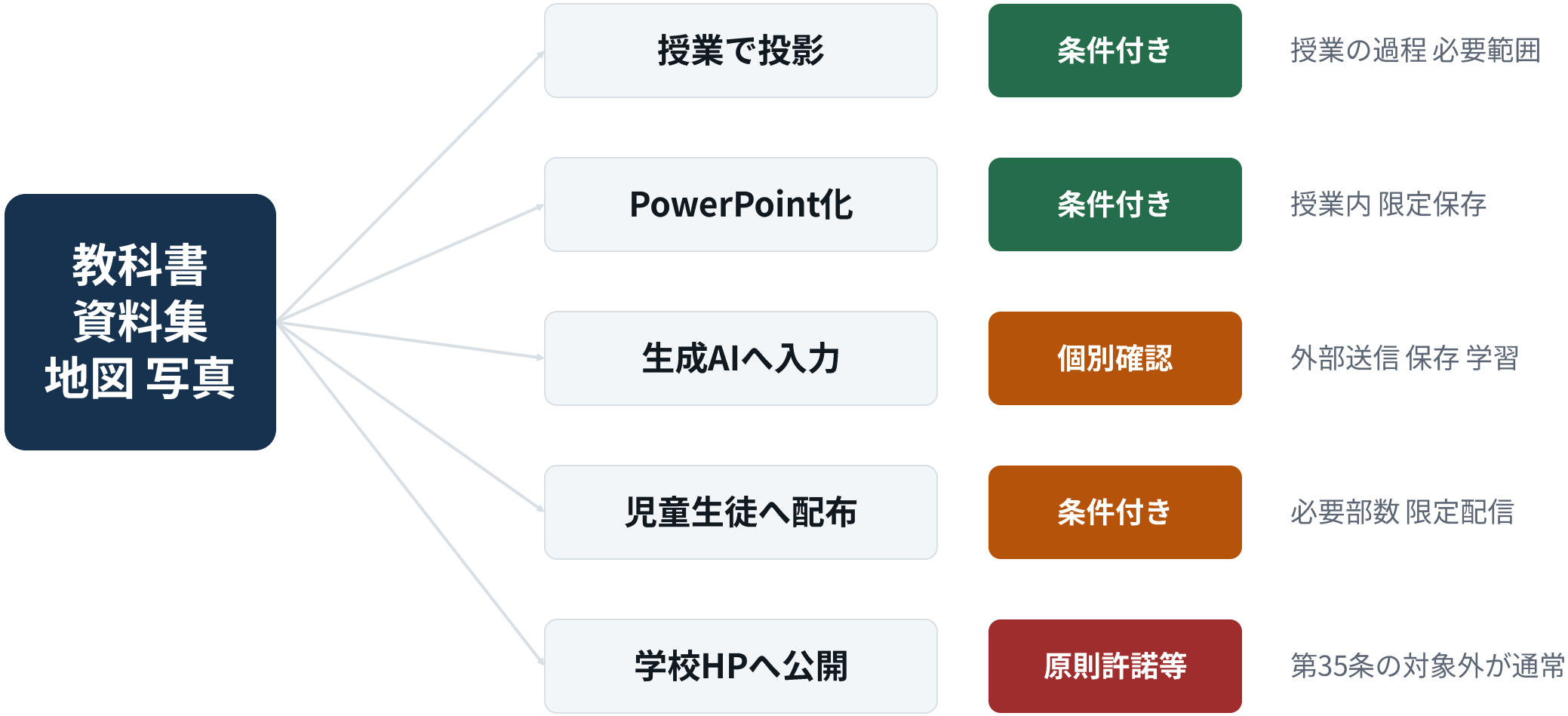
個人情報
丸写しと依存
不正な評価

判断の目安

年齢条件 保護者説明 指導監督
利用記録と過程評価

活用場面ごとに 出力確認者と最終判断者を定める

教科書 資料集の地図や写真



個人情報をAIへ入力する前の確認



必要最小限
利用目的
匿名化と再識別リスク

保存 学習 二次利用
人手閲覧 再委託 国外処理
削除と事故通知

誤った個人情報
偏り ラベリング
共有範囲と最終判断

一般向けAIへ 成績 生徒指導 健康情報を入力しない

リスクを具体化すると対策を選べる

誤情報	一次資料 教科書 公的情報で照合
偏り	複数視点を確認 人が最終判断
個人情報	入力制限 承認環境 契約 ログ
著作権	必要範囲 ライセンス 類似確認
不正利用	過程評価 口頭確認 利用記録
依存	AIなしの活動と組み合わせる

対策後に残るリスクまで確認し 利用判断と確認者を記録

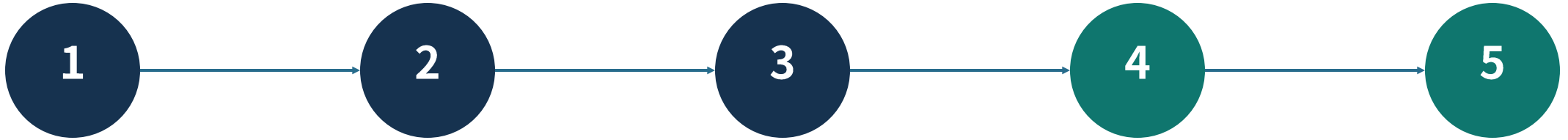
役割分担と運用体制

教育委員会	方針 サービス承認 契約 研修 監査 改訂
学校管理職	校内運用 例外承認 相談 事故報告
教職員	目的設定 必要最小限の入力 出力確認 修正 指導
児童生徒	ルール遵守 検証 引用 利用記録

支援　**法務 著作権　情報セキュリティ　教育課程**

豊田市モデルの段階導入

実装



1	2	3	4	5
基準整備	**低リスク利用**	**モデル実践**	**高度利用検証**	**展開と改訂**
情報区分 承認サービス Q&A	Lv.1校務 教材作成 教職員研修	Lv.2 限定的な 児童生徒利用	Lv.3〜4 契約環境 影響評価	評価共有 全市展開 年次更新

次の段階へ進む条件 教育効果 事故 入力違反 保護者理解 修正負担 費用

教育委員会で検討いただきたい事項

協議

1 利用を認めるAIサービスと契約条件

2 一般向けAIへ入力してよい情報の上限

3 Lv.1〜4の許可 条件付き 個別審査

4 児童生徒利用の学年と指導監督

5 教科書等のAI入力と配布の確認手順

6 最終判断者 記録 相談 事故対応

7 モデル校の対象と評価指標

8 法令 規約 技術変更への更新責任

教育効果とリスクを評価し 利用条件を決定する